

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	㈱明治京都工場4期増築工事	階数	地上2F
建設地	京都府京田辺市大住立原1の1	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	60人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年10月20日
敷地面積	88,080 m ²	作成者	半田昌樹
建築面積	35,137 m ²	確認日	2016年10月20日
延床面積	15,266 m ²	確認者	半田昌樹

外観/パース等
図面等が付けるとともに、
パースの提供を希望していただきます。

2-1 建築物の環境効率: BEEランク&チャート	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響: チャート	2-3 大項目の評価: レーダーチャート								
<p>BEE = 1.4 ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>63%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです。</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	63%	③上記+②以外の	63%	④上記+	63%	
①参照値	100%									
②建築物の取組み	63%									
③上記+②以外の	63%									
④上記+	63%									

2-4 中項目の評価: バーチャート

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 2.7	Q2のスコア = 3.2	Q3のスコア = 2.8
音環境: 3.0, 温熱環境: 2.8, 光・視環境: 2.3, 空気質環境: 3.0	機能性: 2.7, 耐用性: 2.9, 対応性: 4.2	生物環境: 3.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.3	LR2のスコア = 3.1	LR3のスコア = 3.1
建物外皮の: 3.0, 自然エネ: 4.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0	水資源: 3.4, 非再生材料の: 3.0, 汚染物質: 3.2	地球温暖化: 4.4, 地域環境: 2.7, 周辺環境: 2.4

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>工場立地法に規定されている緑地面積を確保すると共に、できるだけ敷地周囲に緑地を配置し周辺環境へ配慮している。外壁については断熱パネルを使用し外部への熱的影響を提言している。</p>		<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>仕上げ材はすべて☆☆☆☆を使用する。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>バリアフリーに対応しており、内装仕上げもリニューアルしやすい壁は塗装仕上げとしている。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>工場立地法で規定されている緑地面積を確保している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>全居室にLED照明を採用し、省電力化を行っている。又、太陽光発電設備も採用している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体及び仕上げ材の分離を行い対応する。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>工場立地法に定められた緑地面積を確保し、敷地外への熱的影響を提言している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される